

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.75
2019. March

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

『不登校・ひきこもりケースの理解と支援 ～包括的アセスメントに基づく支援～』

こども心療科 心理療法師 仲間 信也

当院は、沖縄県より『子どもの心の診療ネットワーク事業』の委託を受け、その一環で定期的に県内の支援者を対象にした研修会を開催しております。

去る1月26～27日の2日間、大正大学心理社会学部臨床心理学教授の近藤直司先生（精神科医）を講師にお招きし、研修会を開催しました。近藤先生は「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン（ひきこもり新ガイドライン）」（厚生労働省）の分担研究者の1人でもあり、数多くの書籍を出版されております。

近藤先生には、『不登校・ひきこもりケースの理解と支援～包括的アセスメントに基づく支援～』をテーマに、不登校やひきこもりの状態にあるお子さんを支援するために、どう情報収集して見立てにつなげていくかについて、具体例を交えながらわかりやすくご講義頂きました。

参加者は、医療、教育、保健、福祉と多岐の領域に渡り、多くの方々にご参加頂きました。2日間に渡る長時間の研修となりましたが、先生のわかりやすい講義に加え、症例検討会やグループワークもあり、時間が過ぎるのが早く感じるほど学びの多い充実した研修会となりました。受講後に実施したアンケートでは、「すぐに実践していきたい」「アセスメントのポイントが学べた」「参加してよかった」等、多くの反響が寄せられ、受講者の満足度は非常に高いものでした。

当院では、今後も「子どもの心の診療ネットワーク事業」を通して、子どもの心や発達の問題に対応できる支援体制の整備に努めていきます。今後の研修会案内についてはマンスリーでも発信していきますので、興味関心のある方はぜひご参加ください。



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成・・・平成29年2月
- 新病棟（第2期工事）完成・・・平成30年10月

教育・研修

- CVPPP(包括的暴力防止プログラム)院内・院外トレーナー養成研修
- 日時：平成31年3月4日(月)～7日(木) 8:30～17:00
- 場所：研修棟会議室・体育館

● 地域医療連携室だより

当院には沖縄県内では唯一の「動く重症心身障がい者（児）病棟」が90床ございます。他施設や事業所ですぐには受け入れが困難な著しい行動障害がある方々の受け入れを行っております。「動く重症心身障がい者（児）病棟」では入院だけではなく、地域での生活を支えるためにショートステイの受け入れも積極的に行っております。関係機関やご家族様より、たくさんのご相談をお受けしております。何かお困りなケースがございましたら、是非、ご相談いただけたらと思います。病棟には精神保健福祉士が皆様からのご相談をお受けしております。何か疑問な点、ご不明な点がございましたら、お気軽に「地域医療連携室」にお声かけ下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ こども心療科
- ・ 物忘れ外来
- ・ アルコール依存症等外来

病床数 416床

- ・ 精神科病棟 151床
- ・ 認知症 56床
- ・ アルコール 54床
- ・ 児童思春期 ユニット 4床
- ・ 重症心身障がい 90床
- ・ 医療観察法 37床



● アクセス
路線バス／那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「17番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車／那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。
国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

お問い合わせ時間
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は261例になりました。平成31年1月のCLZ導入は5例で、このうち3例は他の病院からのご紹介をいただきました患者様でした。(入院中2例、通院中1例) CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成31年1月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

去った3月2日に当院医師と心理療法師を講師に「『読み』につまずきのある子の評価とT式ひらがな音読支援の紹介」と題した研修会を開催しました。今回は、平成30年10月に国立成育医療研究センター(東京都)で行われた「平成30年度ディスクレシアワークショップー音読の評価と指導ー」へ参加し学んだことをお伝えする研修でした。定員以上の参加申し込みがあり、地域での関心が高い内容であることを実感しました。

研修会には、31名の方がご参加いただき、「読む」ことのメカニズムやそのつまずきによる影響、「読み」のアセスメントについて講義とロールプレイを行いました。講義では、標準化されたアセスメントを用いて、子どもの学習への困り感を把握する事や多面的に評価することの大切さをお伝えしました。

参加者からは研修会終了後も質問が飛び交うなど活発な会となりました。今後もこのように様々なテーマで研修会を企画・運営していきます。



認知症医療 認知症早期発見のポイントについて

認知症は、患者さんのご家族をはじめ、その患者さんを取り巻く地域の方々、日常の暮らしの中で「あれ?いつもと違うな」と変化に気付き、外来受診に繋がる事が多くみられます。

よく見られる変化としては、①同じことを何回も言ったり聞いたりする ②夜中に急に起きだして騒いだ ③置き忘れやしまい忘れが目立つ ④ささいなことで怒りっぽくなった、などがあります。

認知症は、早期発見と適切な治療を行うことが大切です。これらの症状を参考に、何かご質問・ご相談がありましたら、地域連携室までご連絡ください。

重症心身障がい医療

3月、4月は多くの職場では人事異動等により職員のいれかわりがある事と思います。出会いと別れの季節は利用者の皆さんも敏感に感じ取る時期でもあります。重度の精神滞滞、肢体不自由により自身の思いを伝える事が困難な利用者さんにとって、慣れ親しんだ自分の事を理解してくれる職員が離れることは環境的に大きな変化となるでしょう。しかし、変わらず同じ環境を続ける事は不可能な事であり、新しい環境が利用者さんにとって更に発展する事につなげられたらと考えます。

我々職員は利用者さんの訴えられない思いに敏感に対応し、何をしたいのか考え、利用者本人の思いを汲みとり適切に支援することが求められます。利用者の皆さんの尊厳を守り、その人権に配慮した医療及び療育の提供が行えるよう取り組んでまいります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では31年12月末現在、外来通院の患者様100名、入院中の患者様19名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

新年度になると、新たなスタッフへと代わり訪問看護でも異動があります。この時期は環境の影響によって、病状の変化がおりやすい時期でもあります。ストレスを感じる方は多いと思われます。訪問看護の利用者様も慣れているスタッフが代わることで何らかの影響を受ける方もいます。環境はいつも同じ状況ではないため、変化に対してどのように対処していくか、前向きに考えていくように利用者様と考えていきます。また、新たな可能性を広げるチャンスともなります。新しい出会いを大切に日々の訪問看護活動を行い、ともに歩めることを願っています。あせらずに困ったことを解決ができるよう一緒に考えていきましょう。

山原路は、新緑が芽吹き春の訪れに躍動感を感じながら、訪問看護車は利用者様のもとに向かいます。

臨床研究部活動状況 『Clozapineの最適治療用量と維持治療量の選定 琉球病院での臨床経験から』 医師 木田直也

琉球病院では2012年2月から2017年12月までに延べ222症例の治療抵抗性統合失調症患者に対してclozapine (CLZ) 治療を行いました。CLZの平均の維持用量は386mg/日であった。CLZ血中濃度の測定を行った検体のうち、CLZ用量100mg~600mgにおける100mgごとの平均の血中濃度 (ng/ml) は順に266、278、499、589、732、737と高くなった。CLZ用量と血中濃度の関係は個体差があり、同じ用量における血中濃度の最高値/最小値の比は1.8倍から4.4倍と大きかったです。これには性差、年齢、喫煙の有無、内服時間、併用薬などが関係していると考えられました。CLZ用量を最適化し、より安全に使用するためにはCLZ血中濃度モニタリング体制の整備が必要です。CLZ治療においては薬物治療をベースにして、患者・家族と多職種チームが退院後の社会復帰を目指して治療に取り組んでいく必要があります。

臨床精神薬理21:1037-1045,2018 より抄録を抜粋